

オンライン 座談会 講演会

伝統工芸用具・原材料の 持続可能な確保に向けて

～分野・業種を超えた情報共有・交流へ～

【開催趣旨】

文化庁では、伝統工芸の様々な用具・原材料が担い手の減少等によって確保し難くなってきていることから、平成29年から令和元年にかけて、現状調査のための調査や検討を行ってきました。その結果、将来的に用具・原材料を確保していくには、伝統工芸の分野や業種を超えた情報共有・交流が重要であると確認しました。

そこで、伝統工芸の技術や用具・原材料を一般にもわかりやすく紹介しつつ、その確保に関わってきた様々な分野の識者を中心に、持続的確保に向けて関係者の取り組みを促進するための意見交換を行う座談会と講演会を4回シリーズでオンライン開催します。

【開催予定】

第1回 座談会「漆の会」／「環境×文化」～持続可能な取り組みに向けて～
開催：2021年2月10日(水)17:30～19:00

第2回 座談会「金工の会」／「継承と情報共有」～次代に受け継ぐために～
開催：2021年2月24日(水)18:00～19:30

第3回 座談会「森林資源の会」
／「分野を超えて」～情報共有・交流の「場」づくりに向けて～
開催：2021年3月3日(水)17:30～19:00

第4回 講演会(講師)塩瀬隆之 京都大学総合博物館 准教授
／withコロナ時代の情報発信・つながり方
～用具・原材料の持続的確保のために～
開催：2021年3月16日(火)17:30～19:00

各回100名 * 各回申し込みが必要です(裏面をご覧ください)

オンライン座談会・講演会

～伝統工芸の用具・原材料の持続可能な確保に向けて～

第4回 講演会

(講師) 塩瀬隆之 京都大学総合博物館 准教授

withコロナ時代の情報発信・つながり方

～用具・原材料の持続的確保のために～

開催：2021年3月16日(火) 17:30～19:00

用具・原材料の担い手の減少などを背景に入手困難なものが増えていますが、それに加えて、新型コロナウイルス感染症によるイベント中止や需要縮小など伝統工芸分野でも影響が広がっているとされています。今後も持続的に用具・原材料を確保していくには、従来の同業者や取引関係などの枠を超えて伝統工芸以外の分野とも情報交換し、つながることで新たな取り組みを進めていく必要があります。

今回の講演会では、昨年度までの文化庁伝統工芸用具・原材料調査委員会委員でもあった塩瀬隆之先生（京都大学総合博物館・准教授）に、必要な情報を得て有効な関係を築くためにどのような方法が望ましいのか、情報発信・情報共有のあり方や関係者の役割など、これまでの様々な分野の事例や経験談等を紹介しながら、今後の取り組みの促進に向けての示唆をいただきます。

【出演者】(講師) 塩瀬 隆之 京都大学総合博物館 准教授

【申込先】下記URLから入力と送信をお願いします(または、文化庁HP/未来研HPから)
(職場ネット環境でアクセスできないときは、スマホ等を活用ください)

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_B32zh1LpTv2zSv6HOYUmlQ

【申込締切】2021年3月12日(金)

【お問合せ先】(事務局) 公益財団法人 未来工学研究所

〒135-0033 東京都江東区深川2丁目6-11 富岡橋ビル 4F

(電話:担当直) 090-2317-9499 (代)03-5245-1011

(E-Mail) kougei.online@gmail.com

(担当) 関、三重野/未来工学研究所

(仮題) withコロナ時代の情報発信・つながり方 ～用具・原材料の持続的確保のために～

出演者



講師

塩瀬隆之 京都大学総合博物館 准教授

講師プロフィール

経歴

京都大学工学部精密工学科卒業、同大学院工学研究科修了。機械学習による熟練技能継承支援システムの研究で工学博士。ATR 知能ロボティクス研究所、慶応義塾大学SFC 研究所客員研究員など併任。京都大学大学院情報学研究科助教、京都大学総合博物館准教授を経て2012年6月退職。同7月より経済産業省産業技術政策課 課長補佐(技術戦略)。2014年7月京都大学総合博物館准教授に復職。NHK Eテレ「カガクノミカタ」番組制作委員。日本科学未来館“おや？”っこひろば総合監修者。平成29年 文部科学省 中央教育審議会委員(数理探究)、平成30年より現在 経済産業省 産業構造審議会イノベーション小委員会委員、特許庁知財創造教育調査委員、文化庁伝統工芸用具・原材料調査委員、日本医療研究開発機構プログラムオフィサーなど。平成29年度文部科学大臣表彰・科学技術賞(理解増進部門)ほか受賞多数。

著書

『科学技術 Xの謎』化学同人(2010年 共著)、『インクルーシブデザイン』学芸出版社(2014年 共著)、『問いのデザイン 創造的対話のファシリテーション』(2020年 共著)など。